

令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金使途状況

No.	事業名	事業概要等	事業費 (円)	臨時交付金 充当額 (円)	効果検証	所管課
1	屋外掲示板設置事業	コロナ禍において、回覧等を廃止したため、各地域に掲示板を整備（4箇所）した。	2,367,200	2,367,200	コロナ禍において、接触機会の低減を図ることを目的に回覧等を廃止したため、インターネットで情報を得ることができない住民等に対し、情報を発信するための掲示板を整備することで新型コロナ関連の情報を発信することができた。	総務課
2	登記済通知書入力支援システム新規導入	土地・家屋所有権移転情報など手入力による業務を減らすため、また、法務局に税務通知を受け取りに行く回数を減らすことで不特定多数との接触を避けるため、新たなシステムを導入した。	880,000	880,000	コロナ禍における職員の町外出張を減らすことができ、感染リスクを低減することができた。	総務課
3	車両購入事業	新型コロナウイルス感染症搬送用車両として、また、現在使用する自由乗降バスがコロナ感染等を理由に使用できなくなった場合、非常時代替運行をするため、車両を購入した。	3,958,740	3,958,740	コロナ禍において、非常時の搬送車両、また、自由乗降バスの代替運行車両を確保することにより、住民の安全安心の暮らしに寄与した。	総務課
4	町内施設感染予防対策事業①	コロナ禍において、不特定多数が利用する町内関係施設に感染予防のために必要な空気清浄機等を設置した。	2,546,657	2,546,657	備品の整備により施設内における感染症の集団感染を防ぐことができた。	総務課
5	救急隊員感染予防対策事業	新型コロナウイルス感染症対策として、救急隊出動時に隊員に必要な感染予防資機材を購入した。	414,480	414,480	救急活動時における感染症対策を適切に行うことができた。	総務課
6	太地こども園感染予防対策事業	こども園において換気に必要なファンの設置、密を避けるためにシャワー室の増設及び外遊びを推進するためのアスレチック用保護ネットを整備した。	1,672,880	1,672,880	設備増設、また、整備により、園児や職員の三蜜の解消が図られた。	教育委員会
7	学童保育所感染予防対策事業	学童保育所において、密を避けるために新たに棚や下足箱を整備した。	1,243,000	1,243,000	学童保育所内における感染症の集団感染を防ぐことができた。	教育委員会
8	タブレット配布事業	新型コロナウイルス感染症による休校などの対応を見据え、遠隔教育を可能とするため、小学校に入学する1年生にタブレットを配布した。	976,140	976,140	新型コロナウイルス等による臨時休校に際して子どもの学びの機会を保障することができ、また、端末を持ち帰ることで家庭学習をオンラインで実施することが可能となった。	教育委員会
9	観光客等動態調査事業	コロナ禍において、対面でのアンケート調査ができないため、デジタルを活用したAIBeaconやQRコードを活用した調査を実施した。	3,226,000	3,226,000	IoT機器を活用することにより非接触の調査を実施することができ、人流データを分析することができた。	産業建設課
10	くじらの博物館事業特別会計への繰出①	地域観光の中核を担う施設であるくじらの博物館において、入館者に売店等で使用できるクーポン券を発券し、消費喚起を促すことで、コロナ禍における地域産業の振興を図った。	5,049,500	5,049,500	クーポン券配布により地域の事業者が生産するお土産等の売り上げが上がり、コロナ禍において地域産業の振興を図ることができた。	くじらの博物館
11	くじらの博物館事業特別会計への繰出②	博物館内における感染リスクの低減を図るため、空調工事、オンラインツアーを開催するために必要な備品や感染予防物品を購入した。	9,224,470	9,224,470	不特定多数が訪れる博物館において、お客様が安心して訪れることのできる環境を整備できた。	くじらの博物館
12	庁舎内感染予防対策事業①	新型コロナウイルス感染症予防対策として、分散勤務を実施するために必要なパソコンや業務に必要なシステムを整備した。	4,111,800	4,111,800	これまで一つの端末を複数人で共有していたが、機器等の整備により一人一台端末となり、感染リスクの低減を図ることができた。	総務課
13	社会福祉協議会への支援	介護タクシーなどを利用できない住民からの要請により病院にPCR検査などを受けに行く際に利用する車両を購入するため、太地町社会福祉協議会に助成金を支出した。	2,100,000	2,100,000	コロナ禍において、搬送車両を確保することにより、住民の安全安心の暮らしに寄与した。	住民福祉課
14	町内施設感染予防対策事業②	旧グリーンピア南紀に発熱者が発生した際の隔離場所がないため、プレハブを設置した。	261,500	261,500	施設内における集団感染を防ぐことができた。	総務課
15	職員等感染予防対策事業	抗原検査キットを整備し、職員の感染リスクの低減を図った。	577,500	577,500	不特定多数と接触の機会がある役場窓口や包括支援センター職員などの抗原検査の実施により、新型コロナウイルスの感染拡大防止を図ることができた。	総務課
16	くじらの博物館事業特別会計への繰出③	くじら館において、可動式の授乳室を新たに整備することで、利用者を分散し、授乳できる環境を整備し、新型コロナウイルス感染症予防に努めた。	3,080,000	3,080,000	不特定多数が訪れる博物館において、特に小さなお子様を連れてお客様が安心して訪れることのできる環境を整備できた。	くじらの博物館
17	商品券配布事業（R3補正予算分）	物価高騰に直面する住民を対象に地域内で利用可能な商品券を配布した。（12,000円/人）※事業番号18とあわせて実施	10,017,559	10,017,559	各世帯の経済的支援を実施、商品券の使用率も9割を超えるなど地域の事業者にとっても一定の経済効果があった。	産業建設課

18	商品券配布事業（R4補正予算分）	物価高騰に直面する住民を対象に地域内で利用可能な商品券を配布した。（12,000円/人） ※事業番号17とあわせて実施	25,791,000	25,791,000	各世帯の経済的支援を実施、商品券の使用率も9割を超えるなど地域の事業者にとっても一定の経済効果があった。	産業建設課
19	デジタル田園都市国家構想推進交付金	自動運転をはじめとする町内の公共交通の運行情報がスマホや各拠点で整備するモニターで確認できる仕組みを構築し、デジタル化を図った。	62,247,432	29,782,042	公共交通（バス）の待ち時間のデジタル化（可視化等）を通じて、感染予防に資することができた。	総務課
20	くじらの博物館事業特別会計への繰出④	コロナ禍において物価高騰の影響を受ける地域観光の中核施設であるくじら館に支援金を繰り出す。	2,500,000	2,500,000	コロナ禍においても鯨類を飼育することができ、本町の観光産業の継続を図ることができた。	くじらの博物館
21	商品券配布事業（R4予備費）②	コロナ禍においてエネルギー・食料品価格等の物価高騰により住民生活に影響を及ぼしているため、消費を下支えするための取組として、地域内で利用可能な商品券を配布した。（5,000円/人）	15,914,512	14,092,500	商品券の使用率も9割を超えるなど地域の事業者にとっても一定の経済効果があった。	産業建設課
22	商品券配布事業（R4予備費）③	コロナ禍においてエネルギー・食料品価格等の物価高騰により住民生活に影響を及ぼしているため、消費を下支えするための取組として、地域内で利用可能な商品券を配布した。（3,000円/人）	5,856,500	5,856,500	商品券の使用率も9割を超えるなど地域の事業者にとっても一定の経済効果があった。	産業建設課
23	抗原検査キット整備事業	感染拡大を防ぐため、抗原検査キットを購入、希望する住民に配布した。	2,530,000	2,530,000	自身で抗原検査を実施することが可能となり、感染拡大防止に資することができた。	住民福祉課
24	情報発信事業	町営じゅんかんバス運行情報について、町内各拠点施設において別途設置するモニターを通じて、情報等を発信し、デジタル化を図ることで接触機会の低減を図った。	1,151,370	1,151,370	町内各拠点におけるバス情報のモニター配信によりバス停における三密回避に資することができた。	総務課
25	訪日外国人旅行者周遊促進事業費補助金	コロナ禍において、地域経済を支える観光の復興の実現に向けて、当町独自の地域資源であるくじらや未来技術であるドローン等を活用したコンテンツの造成等を実施するために社会実験を実施した。	9,012,652	2,006,326	屋外アクティビティを対象とした旅行商品の造成、社会実験を実施することでコロナ禍における新たな観光メニューの開発をすることができた。	総務課
合 計			176,710,892	135,417,164		